

(発表資料)

平成17年5月26日
財団法人 放送文化基金

第31回「放送文化基金賞」

財団法人放送文化基金（理事長 河竹 登志夫）では、第31回放送文化基金賞を次のとおり（詳細別紙）決定しました。

1 番組部門——— 14番組、5件

（1）テレビドキュメンタリー番組…… 6番組

本賞—1 優秀賞—該当なし テレビドキュメンタリー番組賞—5

（2）テレビドラマ番組…… 4番組

本賞—1 優秀賞—1 テレビドラマ番組賞—2

（3）ラジオ番組…… 4番組

本賞—1 優秀賞—1 ラジオ番組賞—2

（4）個別分野賞…… 5件

「出演者賞」—— 2件

「映像賞」—— 1件

「制作賞」—— 1件

「音響効果賞」—— 1件

2 個人・グループ部門——— 8件

（1）放送文化…… 4件

（2）放送技術…… 4件

受賞番組、受賞者には、賞状、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞—200万円、優秀賞—100万円、各番組賞—50万円、番組部門の個別分野賞—各30万円、個人・グループ部門—各50万円です。

なお、贈呈式は、平成17年6月24日(金) 午後4時30分から千代田放送会館ホール（東京都千代田区紀尾井町）で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金
東京都渋谷区宇田川町 41-1 共同ビル5F
TEL(03)3464-3131
(担当 小野寺、馬越、安部)

第31回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門		賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
組 部 門	テレビドキュメンタリー番組	本 賞 (200万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 復興 ～ヒロシマ・原子野から立ち上がった人々～
		優 秀 賞 (100万円)	該当なし	
		(50万円)	NHK松山放送局	NHKスペシャル 四万十川 驚異の汽水域
		(50万円)	中部日本放送	山小屋カレー ～2004秋篇
		テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)	NHK	NHKスペシャル トラック・列島3万キロ ～時間を追う男たち～
		(50万円)	中京テレビ	NNNドキュメント '04 見過ごされたシグナル 検証 高速道路トラック事故
		(50万円)	NHK長崎放送局	体いっばいで原爆を語りつぐ
	テレビドラマ番組	本 賞 (200万円)	テレビ朝日	テレビ朝日開局45周年記念 特別企画 砦なき者
		優 秀 賞 (100万円)	日本テレビ	ウーマンズ・ビート ドラマスペシャル 溺れる人
		テレビドラマ番組賞 (50万円)	NHK	NHKスペシャル 21世紀日本の課題「司法大改革 あなたは人を裁けますか」 第一夜 ドラマ編
		(50万円)	日本テレビ	向田邦子新春ドラマスペシャル 冬の運動会
	ラジオ番組	本 賞 (200万円)	NHK	FMシアター シリーズ・ベトナムの現代文学 戦争の悲しみ
		優 秀 賞 (100万円)	宮崎放送	MRTラジオスペシャル チンドン降臨 ～神話の里 高千穂からの報告～
		(50万円)	北海道放送	「熊木杏里の朝の夜ふかし」スペシャル ～あなたと歌いたい～
		ラジオ番組賞 (50万円)	北日本放送	Thanks a lot, to Yutaka Ozaki ～音楽プロデューサー 須藤 晃 13年目の告白～
	個別分野	出演者賞 (30万円)	篠原 涼子	「ウーマンズ・ビート ドラマスペシャル 溺れる人」の演技
		出演者賞 (30万円)	役所 広司	テレビ朝日開局45周年記念 特別企画 砦なき者」 の演技
		映像賞 (30万円)	木原 英雄、山本 泰正、 坪内 俊治、上辻 裕己、 小合 正太郎	「NHKスペシャル 四万十川 驚異の汽水域」 の映像
		制作賞 (30万円)	中村 直文、落合 厚彦、 下垣 圭三	「NHKスペシャル トラック・列島3万キロ ～時間を追う男たち～」の制作
		音響効果賞 (30万円)	若林 宏	「FMシアター シリーズ・ベトナムの現代文学 戦争の悲しみ」の音響効果
個人・グループ部門	放送文化	(50万円)	赤井 朱美 (石川テレビ ディレクター)	優れたドキュメンタリー番組の制作
		(50万円)	FMながおか(新潟県長岡市)と エフエム雪国(新潟県南魚沼市)	新潟県中越地震発生後、地元のコミュニティエフ エム放送局として被災者向けに流し続けた一連 の災害放送
		(50万円)	NHK神戸・大阪放送局震災 10年プロジェクト (NHK神戸放送局・ NHK大阪放送局)	震災10年「いのち守るために」キャンペーンの 取材・制作活動
		(50万円)	NHK『難問解決! ご近所 の底力』制作班 (NHK)	身近な地域意識の醸成を促す新しい視聴者参加バ ラエティ番組の確立
	放送技術	(50万円)	音声チェッカー開発グループ 代表 中島 良隆(読売テレビ)	マスター監視の負担を大幅に軽減できる音声 チェッカーの開発・運用
		(50万円)	5倍速ハイビジョンハイスピード カメラ開発グループ 代表 小笠原 俊英 (NHK)	5倍速ハイビジョンハイスピードカメラの開発
		(50万円)	関 克哉 (フジテレビ)	モーションコントロールカメラシステム 「Camsat」の開発・運用
		(50万円)	TVML研究開発チーム 代表 林 正樹 (NHK)	TVMLの実用化

第31回 放送文化基金賞

「番組部門」

－ テレビドキュメンタリー番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
NHKスペシャル 復興 ～ヒロシマ・原子野から立ち上がった人々～ 平成 16.8.6 (金) 21:00～21:58 NHK広島放送局	制作統括 梅岡 宏 近藤 史人 小高 純 構成 横井 秀信 今井 洋介 取材 西山 健一 佐藤 将之 撮影 上泉 美雄 語り 高橋 美鈴	原爆投下直後の広島を記録した 150 枚の航空写真がアメリカ・メリーランド州の国立公文書館にある。原爆の威力を調査するためにアメリカ軍が撮影したものである。 黒ずんだ瓦礫の原野、くすぶる煙。70 年は草木も生えないと言われた、破壊し尽くされた広島の様子が写し出されていた。 番組は広島大学と協力し、この写真をデジタル技術で分析。そこには、死の街から立ち上がろうとする人々の姿もとらえられていた。 被爆5日後には、十数張りの仮設の救護テントが建てられ、さらにその3日後には焼けた路面電車は移動させられて主要な道路は通れるようになっていた。復興の第一歩である。 航空写真に残された生の傷跡と当時現場にいた人々の証言から、怒りや悲しみを乗り越えて再生に取り組む人たちと広島復興の道程を辿った。	広島と長崎の放送局からは毎年、被爆体験を風化させてはならないという志が伝わる優れた番組の応募があるが、この作品は荒野と化した被爆都市の復興をテーマとしたものである。 悲劇の強調ではなく、航空写真から復興の過程を実証的に検証し、従事した人たちの真情をも的確に記録した。 むしろ優しさに充ちた反原爆ドキュメンタリーとなっている。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
NHKスペシャル 四万十川 驚異の汽水 水域 平成 16.8.28 (土) 21:00～21:52 NHK松山放送局	制作統括 山本 篤 木原 英雄 構成 武内 俊輔 取材 山本 泰正 坪内 俊治 上辻 裕己 小合正太郎 映像編集 伊藤 康弘 出演者 一藤 貞夫	高知県西部を流れる清流、四万十川。河口から6～9 kmは海の水と川の水が交差する汽水域である。そこを舞台に繰り広げられる豊かな自然の営みを1年間にわたって映像で記録した。 夏には南方系の熱帯魚があふれ、冬にはアオノリが川床を緑に染め、鮎などの稚魚を育む。その豊かな自然が昔ながらの漁法に生きる地域の人々を支えている。 そして、長期にわたる挑戦の結果、日本ではごく限られた場所にしか生息していない“幻の魚”アカメの生きた姿、そして暗闇に光る赤い目を初めてカメラにとらえることに成功した。	日本有数の清流、四万十川の汽水域に着目し、海と川が交差することで起きる神秘的な自然現象や豊かさのメカニズムを映像と音声の機能をフルに活かして見事にとらえた。 ほとんどは視聴者にとって初めて目にする映像だが、自然の神秘を描いた優れた映像詩になっている。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
山小屋カレー ～2004秋篇 平成 16.11.29 (月) 1:05～2:00 中部日本放送	演出・プロデューサー 藤井 稔 企画・ディレクター 大園 康志 構成 松永 英隆 撮影 川瀬 莊司 音声 吉田 高章 撮影補 正木 圭太 音響効果 大沼 賢一 語り 大杉 漣 出演 佐々木正一 佐々木春江	三重県・御在所岳にある「御在所 山の家」。鈴鹿連峰では草分け的なこの山小屋の管理人は 94 歳になる佐々木正一さんと 92 歳の春江さん夫婦。盛況時には 1 万人もあったという泊り客も今ではめっきり減った。“人は働けるうちは働らかなあかん”という無口で働き者の正一さんは 15 分の昼寝が日課だ。屋根のさび止め塗り、水道の補修と忙しい毎日。耳の遠い春江さんはお喋りで頑固、“ちぐはぐな夫婦や”と笑う。築 70 年になる山小屋での変わらぬ日々。ここでの夕食は春江さんの作るカレーと決まっている。誰にも文句は言わせない…。	“頭を押さえつけるものがないのが一番”と言う老夫婦がたくましく暮らす山小屋。美しい自然の移ろいとともに過ぎゆく日々の中で交わされる“噛み合わない”会話は見るものを笑いに誘う。限りなく人間味にあふれた作品。
NHKスペシャル トラック・列島 3 万 キロ ～時間を追う男たち ～ 平成 16.7.18 (日) 21:00～21:49 NHK	構成 中村 直文 制作統括 千葉 聡史 取材・撮影 落合 厚彦 照明 下垣 圭三 編集 高橋 寛二 草場 一友 音響効果 小野さおり 語り 荻谷 俊介	日本経済の物流の 9 割を担っているトラック業界。企業や消費者から“より早く”“より安く”を求められる一方、相次ぐ事故の影響により、大型トラックに対し、時速 90 km のスピード制限装置の装着が義務づけられた。「スピード」と「安全」のはざまで葛藤を続ける長距離トラック運転手たちの日々を追った。 トラックステーションで出会った、ベテラン運転手。彼のトラックに同乗して走り続けた日本列島 3 万キロの取材の旅は、彼らの悲鳴を伝えている。記録した映像の背後にかいま見えてきたものは、スピードや効率を求める一方で大切なものを失い続ける“現代”の姿だった。	過当競争を強いられる長距離トラック運転手の日常をひたすら記録した映像が、背後に透けて見える“現代”を鮮やかに伝えている。 肥大化した我々の物流への欲望をはじめ、見るものにさまざまな思いを抱かせる優れた作品。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
NNNドキュメント04 見過ごされたシグナル 検証 高速道路トラック事故 平成 16.6.27 (日) 24:25～25:20 中京テレビ	構成 樋口由紀雄 ディレクター 大脇三千代 プロデューサー 桜井 一毅 編集 常川 篤 撮影 中村 康久 録音 鈴木 彰 整音 浜口 崇 音響効果 尾澤 道春 ナレーター 内藤 剛志	2002 年 8 月、三重県鈴鹿市の東名阪自動車道で死者 5 人を出す事故が発生した。渋滞中の車の列に居眠り運転の大型トラックが突っ込んだのが原因だった。亡くなった愛知県弥富町の阪口若葉君（6 歳）の両親は「死ななければならなかった本当の理由を 6 歳の子どもにもわかるように説明するのが大人の責任」と考えている。 日本の物流の 9 割を支えるトラック業界は今、規制緩和による過当競争と運賃の値下げに苦しんでいる。しわ寄せを受けているのはトラック運転手。事故が起きてから監査に入る今の体制に対し、阪口さん夫婦は国土交通省への問いかけを始めた。	あるトラック事故を取り上げ、その事件の背後にある社会的構造に鋭く迫っている。構造的な問題をよくとらえ、事故という切り口から、事故の当事者、被害者の立場の両方に迫り、社会のひずみを浮び上がらせている。国や地方機関を含め、多角的な取材を行なっている点も評価された。
体いっぱい原爆を語りつぐ 平成 16.8.9 (月) 21:00～21:49 NHK長崎放送局	制作統括 鳥谷部寛巳 構成 鐘ヶ江雅子 取材 藤田 斉弘 編集 市川 芳徳 音声 猿田 茂一 蒲原 卓 音響効果 小野さおり 語り 長谷川勝彦 声の出演 白坂 道子	生まれたときから耳が聞こえない山崎榮子さん(77)は、18 歳の時に長崎で被爆し、姉を亡くした。山崎さんは“あの日”の記憶を手話で語り継いでいる。 一昨年、長崎平和祈念式典で、被爆者代表として、手話で平和の誓いを呼びかけた。顔の表情や体全体で、目の当たりにした惨状を生々しく語る姿は大きな反響を呼んだ。 戦後 60 年を迎え、被爆者の平均年齢は 71 歳を超えた。長崎の聾唖被爆者は 100 人に及ぶが、多くは自らの体験を証言していない。被爆体験の風化が叫ばれる中、山崎さんは自らの体験と想いを静かに激しく語り続ける。	聾唖者の主人公が被爆体験を手話で伝える「無音の表現」が見る者に迫ってくる。手話だけの表現が、かえって原爆の悲惨さを強く伝えている。活字メディアでは決してできない、テレビ独自の「記録と伝達」であると評価された。

第31回 放送文化基金賞
「番組部門」
－ テレビドラマ番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
テレビ朝日開局 45 周年記念 特別企画 砦なき者 平成 16.4.2 (金) 21:00～23:09 テレビ朝日	原作・脚本 野沢 尚 監督 鶴橋 康夫 制作統括 早河 洋 企画 岩永 恵 小橋 智子 プロデューサー 黒田 徹也 田辺 隆史 音楽 宇崎 竜童 出演 役所 広司 妻夫木 聡 鈴木 京香 内野 聖陽 大杉 漣 ほか	ビジネスホテルの一室で全裸の女子高生がひとり、首を吊った。少女は前日、首都テレビの人気ニュース番組『ナイン・トゥ・テン』の特集企画の中で、少女売春の元締めとして報じられたばかり。恋人を報道によって殺されたと訴える青年・八尋樹一郎がライバル局に出演し、視聴者の同情を一身に集める。瞬く間にカリスマ青年と化す八尋。一方、視聴者の非難を浴び、番組を降板させられた『ナイン・トゥ・テン』のメインキャスター・長坂文雄は、企画を担当した女性ディレクター・逢沢瑤子とともに、八尋の過去を追い、彼の仕掛けた“完全犯罪”の全貌を暴いていく。そこには、テレビのスキを逆手にとってのし上がる怪物の姿があった。命を懸けて八尋と対決する覚悟を決めた長坂。長坂が最後に見たものは・・・	メディアという巨大な世界の内と外を「砦」という概念で描いた迫力に満ちた作品。登場人物の吐くセリフが見る側に突き刺さってくる。業界、一般視聴者も含めたテレビ社会そのものに対する問題提起を含んでいる。また、放送界の根幹を揺るがすニュースが相次ぐなか、この作品の先見性、予見性が注目され、評価に繋がった。今までにないドラマに挑んだスタッフ、役者たちも高く評価された。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
ウーマンズ・ビート ドラマスペシャル 溺れる人 平成 17.3.1 (火) 21:03～22:54 日本テレビ	プロデュース 前田伸一郎 萩野 哲弘 演出 雨宮 望 脚本 井上由美子 音楽 糸川 玲子 原作 藤崎 麻里 出演 篠原 涼子 西島 秀俊 栗原 小巻 前田 吟 室井 滋 布施 博 峰 竜太 泉谷しげる ほか	母親の過剰な期待を受けて育った麻里は故郷に帰り結婚するが、それ以来毎日酒を飲むようになる。一旦酒を口にするととまらず、泥酔し醜態をさらす。酔いが覚めれば反省するが、結局同じことが繰り返される。妊娠、出産を機に、酒への欲求が消えるが、これも娘が 1 歳になるまで。飲酒は以前よりエスカレート、屋根裏やトイレのタンクにまでビールを隠し、ついにはスーパーでワインを万引。アルコール依存症だと察した夫・誠治の説得で、専門病院を訪れ、断酒を始めるが、発熱した娘のためのイオン飲料を買いに出た夜、自動販売機を目にすると、またビールを買い込み、地べたに座り込んで泣きながら飲み続けるのであった。しかし、自らの意思で閉鎖病棟に入ることを決断、壮絶な闘いに挑んだ・・・	アルコール依存症と闘う主婦の経過をけれんみなく描ききり、これまでのテレビドラマでは真正面から描かれることがなかったアルコール依存症の重大性を示した。入念な取材に裏打ちされたリアリティと入魂の演技が見るものを強く引きつけた。“人間関係の病”といわれるアルコール依存症を通して、夫婦とは何か、家族とは何かをも問いかけている。

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
NHKスペシャル 21世紀日本の課題 「司法大改革 あなたは人を裁けますか」 第一夜 ドラマ編 平成 17.2.12 (土) 21:00～22:14 NHK	作 下川 博 音楽 栗山 和樹 制作統括 岩谷可奈子 演出 望月 良雄 美術 稲葉 寿一 技術 大沼 雄次 音響効果 若林 宏 出演 三浦 友和 内山 理名 佐藤 慶 中村 梅雀 麻生 祐未 あき 竹城 佐藤 正宏 マギー 若松 武史 ほか	司法改革の目玉、裁判員制度が 2009 年スタートする。 その 2009 年、リストラが原因でホームレスになった男が起こした傷害致死事件の裁判が始まった。3 人のプロの裁判官と共に事件を裁くことになった裁判員はサラリーマンや就職浪人中の女性、主婦、老人などたまたま選ばれた 6 人。はじめはプロの裁判官に結論を出してもらって早く解放されたいとの気持ちが強かったが、次第に自分の生活感覚に照らして考え、真剣に議論を交わすようになる。 そして、焦点は実刑判決とするか、執行猶予を付するかになった・・・。	裁判員制度のスタートを 4 年後にひかえ、初めて重大な刑事事件を裁く立場になる裁判員が法廷や評議の場でどんな役割を担うことになるかを、分かり易く描いている。裁判員の生活感覚を踏まえた率直な発言や自らの人生を振り返っての心の揺れも丹念に描かれ、市民感覚を取り入れた“新しい裁判”を身近に感じさせた。
向田邦子新春ドラマ スペシャル 冬の運動会 平成 17.1.4 (火) 21:00～23:54 日本テレビ	脚本 田淵久美子 監督 水田 伸生 企画協力 畠中 鈴子 出演 岡田 准一 長谷川京子 國村 隼 樋口可南子 植木 等 寺島しのぶ ほか	大学生の北沢菊男は、元裁判官の祖父・健吉と一流企業に勤める父・遼介と母・あや子の 4 人家族。堅苦しい家に苦痛を感じていた菊男は、子どもがいない中年夫婦が営んでいる靴屋に出入りをしている。菊男は、その家族に安らぎを感じていた。そして、客として来た日出子という女性にひかれていく。 一方、家では謹厳な健吉も実は愛人を囲い、父親も亡き親友の妻のもとへ足しげく通っている。それぞれが本当の家族より、安らぐことができる「疑似家族」を持っていた。 やがて男達の秘密が明らかになり、家族は大きく揺らぐが、やがて父は子の子は父を理解する・・・。	向田作品を現代に置き替え、登場人物たちのささやかな日常を丁寧に描いていて、今という時代の問題を浮き彫りにしている。 この作品は、リメイク作品だが、今日的な視点、新しさを打ち出していて、新しいドラマとして評価できる。

第31回 放送文化基金賞

「番組部門」

－ ラジオ番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
FMシアター シリーズ・ベトナムの現代文学 戦争の悲しみ 平成 16.9.18 (土) 22:00～22:50 NHK	原作 バオ・ニン 訳 井川 一久 脚色 谷 登志雄 音楽 ニッパ 制作統括 金澤 宏次 技術 大塚 豊 音響効果 若林 宏 演出 保科 義久 出演 横堀 悦夫 水野 ゆふ 南風 洋子 樋浦 勉 ほか	1976 年、ベトナム戦争が終わって1年後。11 年ぶりに故郷ハノイに帰還したキエンは、恋人フォンと再会する。夜毎、地獄のような戦場の記憶に悩まされるキエン。不眠症のためさまよう夜の街でキエンは、フォンが娼婦のような生活を送っていることを知ってしまう。 1965 年、アメリカが本格参戦したその年、キエンは人民軍に入隊する。フォンと乗った貨物列車は空襲に遭遇する。爆弾炸裂の中でフォンは集団レイプされ、キエンはその一人を撲殺する。17 歳のあの日、愛し合っていた純粋無垢の若き抗米愛国の二人のうち、一人は戦士になり 一人は女になった。 戦争は終わった。しかし、それは狂気と死と暴力の勝利であった。人々の心から戦争の傷跡が消えることはない。	平和を取り戻してもなお、ベトナム戦争の傷跡に苦しむ一組の男女の哀切きわまりない心情を豊かに描き出すことに成功している。 戦時と現在の時空を往還しながらの重層的なストーリー展開と場面場面を立体的に伝える音響が、映像を上回る鮮烈さでわき上がってくる最高作品。 緊迫した構成、見事な脚色で聞き応え十分である。 また、俳優陣の熱演も高く評価された。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
MRTラジオパシフィック チンドン降臨 ～神話の里 高千穂 からの報告～ 平成 16.10.31 (日) 22:30～23:30 宮崎放送	脚本・演出 山県 昭彦 音響調整 守安 章 取材制作・番組ディレクター 湯浅 和憲 出演 神のおた福ちんどん屋 (戸高 タズ 他 6 名) 高千穂神社 宮司 (後藤 俊彦)	九州山地奥深く、天孫降臨の神話で知られた高千穂で、神のおた福ちんどん屋」を名乗り元気いっぱいにチンドン屋を演じて回るおばあちゃんグループがある。メンバーは 7 人。平均年齢は 75 歳。神のおた福ちんどん屋」誕生のきっかけは平成 11 年春、氏神様の祭りに余興として出演したことだった。 デビューしたおばあちゃんたちのチンドンは小さな山里を揺るがすほどの大評判になり、以来いろいろなところから出演依頼が続いている。過疎化が進む高千穂町の、今や地域に活力を呼びおこす大切な存在になっている。青春時代を戦争の中で過ごしたメンバーたちの苦難に満ちた人生の足取りと共に、地域活動に取り組んでいる姿を描き、高齢健常者が残る人生をいかに生きるかに一つの示唆を与えている。	ラジオの特徴である音の威力をストレートに生かしきった迫力のある番組である。 平均年齢 75 歳の 7 人のおばあちゃんたちがチンドン屋を結成し、地域活動に取り組む物語は、チンドンの音響と快活なしゃべりどで高千穂に活力を吹き込んだ。 苦労した過去を持つ高齢の女性たちの生き生きとした姿が共感を誘った。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
「熊木杏里の朝の夜ふかし」スペシャル ～あなたと歌いたい～ 平成 16.5.31 (月) 20:20～21:00 北海道放送	制作 鎌田 強 構成・演出 吉田 隆志 技術 小沼 秀 出演 熊木 杏里 小林 真己 吉俣 良	レギュラー番組 熊木杏里の朝の夜ふかし」のスペシャル番組。 当初の企画は上顎ガンを克服した小林真己 (しばやしまなみ) さんに、歌手の熊木杏里 (くまきあんり) が、彼女を勇気づけるオリジナル曲をプレゼントするというものであった。しかし、二人が会話を重ねていくうちに、逆に常に前向きに生きている小林さんから励まされるという関係となっていった。お互いに自作の曲を披露しあうことで、二人の心は更に通じ合っていた……。	ガンとの戦いを通して生の意味を問い続ける小林真己さんの前向きな姿勢は、聴き手に深い感銘を与えたと評価された。 感傷的になりがちなテーマであるが、病気になるまでよかった」とまで言わせる真己さんの内面からは、歌があり、出会いがあっただけで力強い生命の賛歌が響いてくるようである。
Thanks a lot, to Yutaka Ozaki ～音楽プロデューサー 須藤晃 13 年目の告白～ 平成 16.5.30 (日) 14:00～15:00 北日本放送	制作・構成 上原 誠 ・技術 出演 須藤 晃 ナレーション 小林 淳子 工藤 佳永	歌手・尾崎豊の 13 回忌を終えてまもなく、彼をデビュー当時から支え続けた音楽プロデューサー須藤晃 (すどうあきら) 氏が、心の奥深く封印してきた尾崎への思いの全てを語った。彼の死後、尾崎豊ブームに沸く世間とは逆に、苦悩を抱えた 12 年間であった。彼との出会い、二人での歌作り、覚醒剤逮捕、活動の再開、そしてその直後の死……。初めて公開される尾崎の肉声も交え、須藤氏の淡々とした告白が続く。 尾崎の歌を開放することがこれからの自分の仕事」と考えた須藤氏は尾崎を敬愛する多くのミュージシャンが参加したトリビュートアルバムを発表。番組から流れるこれらの曲も印象的だ。	26 歳で不慮の事故で亡くなった尾崎豊を最も理解した音楽プロデューサー須藤氏の、彼への深い愛情を感じさせる告白の一つ一つが胸に響く。 テーマを押し付けることなく、静かに考える時間を共有でき、ラジオの 60 分を深く豊かにした作品。

第31回放送文化基金賞
「番組部門」－個別分野賞－

出演者賞

受賞者	対象番組	選考理由等
しの はら りょう こ 篠 原 涼 子	ウーマンズ・ビート ドラ マスペシャル 溺れる人 (日本テレビ) テレビドラマ番組	アルコール依存症の主婦を熱演した篠原涼子は、そのやわらかな存在が周囲の出演者の芝居を撥ねつけて、しかし浮き上がることなく物語を展開させ、作品のクオリティを高める鋭さがあった。自分自身の存在を賭けて、テレビとのつきあいかたを示唆した意欲と力の大きさが高く評価される。

出演者賞

やく しょ こう じ 役 所 広 司	テレビ朝日開局45周年記念 特別企画 砦なき者 (テレビ朝日) テレビドラマ番組	大ベテランの俳優だが、常に新しい役作りに挑み、『砦なき者』のキャスター役では、自らのジャーナリスト生命を賭け、メディアとは何かと問いかける迫真の演技で、視るものに緊張を与えた。
-----------------------	---	--

映像賞

きはら ひでお やまもと やすまさ 木原 英雄、山本 泰正 つばうち しゅんじ うえつじ ゆうき 坪内 俊治、上辻 裕己 こあい しょうたろう 小合 正太郎	NHKスペシャル 四万十川 驚異の汽水域 (NHK松山放送局) テレビドキュメンタリー番組	汽水域に見られる自然の驚異、そこに生息する生命体の不思議さを、最先端の技術を駆使しながら、映像詩とでもいえる美しいドキュメンタリーに作り上げている。映像表現は見事である。高感度カメラがとらえた暗闇に光るアカメのまさに「赤い目」など、数々の初めての映像も評価される。
---	--	--

制作賞

なか むら なお み 中 村 直 文 おち あい あつ ひこ 落 合 厚 彦 しも がき 圭 ぞう 下 垣 圭 三	NHKスペシャル トラック・列島3万キロ ～時間を追う男たち～ (NHK) テレビドキュメンタリー番組	規制緩和による過当競争を強いられる長距離トラック。彼らの車に同乗して、3万キロを密接取材した制作現場の労苦。運転手を対象に、距離を置いてその日常をひたすら記録した姿勢が、かえって現実の重みを鮮やかに伝えている。
--	---	---

音響効果賞

わかばやし ひろし 若 林 宏	FMシアター シリーズ・ ベトナムの現代文学 戦争の悲しみ (NHK) ラジオ番組	激しい銃撃戦や機関車、駅での雑踏の音など極めて丁寧に作られており、ベトナムの当時の町の様子やベトナム戦争の悲惨さを音で描くことに見事に成功している。
--------------------	---	--

第31回放送文化基金賞

「個人・グループ部門」

－ 放送文化 －

受賞者	業績	業績内容・選考理由
あかい あけみ 赤井 朱美 (石川テレビ ディレクター)	優れたドキュメン タリー番組の制作	常に人間を軸にした独自の視点と感性で様々なドキュメンタリー番組を制作してきた。日々のニュースでは伝え切れないものをじっくり掘り下げ、今日的な意味を鋭くあぶり出す作品は評価が高く、受賞も多数。特に生活者の視点から原発問題に焦点を当てた番組は4本を数える。地元の視聴者からの高い支持を得て、平成16年から自社で月一回のドキュメンタリー番組のレギュラー化を実現させた功績は大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
FMながおか(新潟 県長岡市)と エフエム雪国(新潟 県南魚沼市)	新潟県中越地震発 生後、地元のコミ ュニティエフエム 放送局として被災 者向けに流し続け た一連の災害放送	市町村をエリアとするコミュニティ FM の両局は、新潟県中越地震(平成16年10月)に遭遇した際、地域密着型メディアとしての特性を十分に発揮し、安否情報、ライフラインや避難所の情報、生活情報まできめ細かく伝えた。また、コミュニティ放送局としては初めて、それぞれ長岡市と十日町市に開設された臨時災害対策局の運営と放送業務を担った。災害発生時に、身近な「私たちの放送局」として、地域に根ざしたコミュニティ FM 放送の役割の可能性をフル回転で実証したことが高く評価された。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK神戸・大阪放 送局 震災10年プロ ジェクト (NHK 神戸放送局・ NHK 大阪放送局)	震災10年「いのち 守るために」キャ ンペーンの取材・ 制作活動	阪神・淡路大震災10年の節目にあたり新潟中越地震の状況も踏まえながら改めて「防災への備え」「生活の復興」などをテーマに様々な番組を集中編成した。NHKスペシャルで核となる特別番組を5夜連続で放送、また生中継も交えた30時間に及ぶキャンペーン番組を放送するなど、10年の取材・映像の蓄積が伝える震災の教訓、地震のメカニズムの最新研究や、被害を抑える減災の試みなどについて総合的に構成し伝えたことが、公共放送ならではの取り組みとして評価された。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK『難問解決！ ご近所の底力』制作 班 (NHK)	身近な地域意識の 醸成を促す新しい 視聴者参加バラエ ティ番組の確立	難問解決！ご近所の底力』(毎週木)は、困っている地域の住民たちをスタジオに招き、他の先進的な地域の取り組みを紹介しながら、具体的な地域活性化のヒントを示し、楽しく問題解決を探っていく生活情報番組。番組をきっかけとして全国各地の町内会や自治体に、新たなネットワークや取り組みが生まれ、そのようなグループを支援する行政の動きも広がっている。放送後の取り組みを「ご近所のその後」として放送するなど、工夫を凝らした新しい視聴者参加バラエティ番組を確立したことが高く評価された。

第31回放送文化基金賞
「個人・グループ部門」
－ 放送技術 －

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
音声チェッカー開発グループ 代表 中島 良隆 (読売テレビ)	マスター監視の負担を大幅に軽減できる音声チェッカーの開発・運用	地上デジタル TV 放送がスタートし、各局のマスターにおいて、既存のアナログ放送とデジタル放送の両方を同時に監視できる効率的な送出監視が求められている。映像については、アナログ、デジタル 2 つの映像を 1 人で同時監視できるが、音声については、遅延があるため、1 人で聞きわけて監視することが困難である。2 つの音声の遅延を補正した相互相関をパソコンを用いて機械的に監視することにより、どちらか 1 つの音声のみを監視すれば良い簡便な音声チェッカーを開発・運用した。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
5 倍速ハイビジョンハイスピードカメラ開発グループ 代表 小笠原 俊英 (NHK)	5 倍速ハイビジョンハイスピードカメラの開発	5 倍速のハイビジョンハイスピードカメラを世界で初めて開発した。従来、130 万画素 2 並列読み出し CCD を使用した 3 倍速カメラが実現していたが、システム重量も 200kg を超えるものであった。新しく開発されたカメラは、220 万画素 16 並列読み出し CMOS 撮像素子と半導体メモリを使用し、5 倍速の高速記録を実現した。システム重量も 28kg と大幅に軽量化された。順次走査の採用によりスローモーションやストップモーションでの高画質を実現した。CMOS 素子のバラツキによる画質劣化を信号処理で改善したことも特筆される。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
せき かつや 関 克哉 (フジテレビ)	モーションコントロールカメラシステム 「Camsat」の開発・運用	従来の、クレーン方式のモーションコントロールカメラシステムにくらべ、時間とコスト、専門知識の必要性を大幅に軽減するシステムとして、可動型クロマキーの構築、360 度撮影を可能にする撮影機構やシンプルで容易なカメラワークを可能にするコントローラを開発・運用した。自由度の高い映像表現が幅広いジャンルの制作現場で可能となり、映像制作に大きく寄与した。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
TVML 研究開発チーム 代表 林 正樹 (NHK)	TVML の実用化	TVML (TV Program Making Language) はテレビ番組を記述できる言語であり、TVML プレイヤーと呼ぶパソコンソフトにより、CG、音声合成などを使って、安価に、リアルタイムでテレビ番組を出力することができる。TVML プレイヤー実用版開発、オーサリングツール「TVML オーサ」開発、TVML による簡易番組制作システム開発、ワープロ平書き台本による制作の研究など総合的な実用化開発を行った。NHK 番組、ケーブルテレビ、大学・専門学校における教材制作などの利用実績を得ている。